

平成26年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

21世紀の国際社会をリードする新しい時代のリーダーを育てる学校めざす。

- 1 知・徳・体の調和のとれた人間を育成するとともに、社会に貢献する志を持った、グローバルなリーダーを育てる。
- 2 夢や志を実現できる確かな学力を身につかせ、生徒の進路希望の実現を図る。
- 3 豊かな心や三丘スピリット（文武両道、自主自立、切磋琢磨）を育む。また、要配慮生徒への支援や人権尊重の精神を涵養し、安全・安心な学校をつくる。
- 4 教職員の資質の向上と機動的な学校運営体制を確立させ、府立高校の評価・信頼向上のリーダー校をめざす。

2 中期的目標

【1】 生徒の夢や志を育み、国際感覚を育成する

(1) 進学指導特色校にふさわしい「志学」や「キャリア教育」を推進する

ア 進路意識の醸成を図る

「総合的学習の時間」・LHRなどで社会の第一線で活躍する人材を有する同窓会等と連携し、卒業生の人材を活用して大学や社会での最先端の学問や研究、仕事の最前線に触れさせる。

- ※ 「三丘セミナー」「三丘カレッジ」等の充実を図り、毎年20講座以上提供する。
- ※ 「SS探究・SS研究」「CS探究・CS研究」の充実による志の形成サポートや大学のオープンキャンパスなどを活用し、学部選びや将来の志望育成を図る。
- ※ 「東京方面キャンパスツアー」を毎年実施し、研究室訪問などを行うことにより、高い目標を醸成し、その満足度を90%以上とする。
- ※ 本校にふさわしい3年間を見通した進路・キャリア教育のプログラムを平成26年度には完成させる。

イ 高い志を育成する

三丘セミナー、大学訪問、医療系職場体験などの具体的なプログラムを提供するとともに、難関大学の見学会や医療体験事業を通じて社会に貢献できる高い志や目標意識を育む。

- ※ リーダーとして高い志を育成するための進路講演会・懇談会を充実させ、生徒の満足度を90%以上とする。
- ※ 京大・阪大・神大などの難関大学の研究室訪問や見学会を年5回以上実施するとともに、その内容の改善・充実を図り、満足度90パーセント以上を維持する。
- ※ 医療現場と連携して医師・看護師などの医療系職場体験の充実によって、医療系進学者の増加を図る。(H23年度は27名、H24は24名、H25は32名)

(2) 国際感覚とグローバルリーダーの育成を図る

ア グローバルリーダーの育成

スーパーグローバルハイスクール（SGH）、進学指導特色校にふさわしい確かな学力を育てるため、「Creative Solutions I II III」・「CS探究」を充実させ、確かな英語の学力をつけるとともに、グローバルリーダーをめざした目的意識を醸成する。

- ※ SGHカリキュラムによる、「メルルハースト大学」の派遣教員の授業、「国際機関の現状と使命」や「世界の最新の知見」を学ぶことにより、生徒の学習意識を高め、グローバルリーダーとしての素養とリーダーシップを学ぶ。上記授業の満足度を90%以上とする。
- ※ 英語教育の充実を図り、「海外進学講座」を充実させるとともにTOEFL ITP、TOEFL juniorの受験者の200名以上を維持する（H25 204名）また同時にH27年度より導入する「SETを活用した英語コース」の準備・充実を図る。
- ※ 海外進学1名以上をめざす。
- ※ 学校教育自己診断（生徒）「コミュニケーションに必要な英語を学ぶ機会がある」肯定的評価65%以上をめざす。(H25 69.9%)

イ 国際感覚の育成を図る

オーストラリア・スタディーツアー、SGH関連のアメリカ・スタディーツアー、フィリピン・スタディーツアー、またスポーツ・カルチャーツアー（台湾を予定）を企画、実施し全てのツアーで満足度90%以上をめざす。

- オーストラリアの友好校「カンタベリー・カレッジ」を始めとし、海外よりの短期留学生20名以上をめざす。また、国際交流センターを活用し、中国・韓国との交流にも努める。
- ※ 学校教育自己診断（生徒・保護者）「国際交流に関する取り組みが充実している」の肯定的評価80%をめざす。(H25 生徒82.7% 保護者81.1%)

【2】 確かな学力の向上と進路希望の実現を図る

(3) 質の高い授業による確かな学力向上

ア 質の高い授業の提供

スーパーグローバルハイスクール、スーパーサイエンスハイスクール、進学指導特色校としてふさわしい確かな学力を育てるため、SGH関連科目、理数系スーパーサイエンス科目の充実や文理学科・普通科に適した教科・科目の教材開発、授業方法の研究を進める。

- ※ スーパーグローバル、スーパーサイエンス校として毎年4回以上の授業公開を行うとともに、保護者への授業公開も3回以上行う。生徒の自学自習（学校外での学習時間）を2時間以上確保する指導を充実する。
- ※ H26年には、1・2年生で1日2時間以上の自学自習をめざす。授業アンケートや研究授業を活用して授業力向上を図り、生徒の授業満足度を向上させる。
- ※ 生徒の授業評価における授業満足度の向上を図り、つねに80%以上を維持する。(H25に86%) また、H26年には学校教育自己診断における保護者の授業満足度65%をめざす。(保護者 H25年度は57%)

イ 学力向上の取組み

1年生及び2年生で勉強合宿を実施して、学力向上と学習意欲の向上を図る。

- ※ 参加生徒の満足度90%以上を維持するとともに、つねにプログラムの工夫・改善を行う。SSHの経過措置1年の取組みを充実させ、イノベーション人材の育成に貢献する。
- ※ 課題研究や発表大会を充実させ、参加生徒の満足度80%以上を維持する。本校生徒に最も適した教育課程を検討し確定する。基礎的、基本的な学力を高めるために読書量、読書時間の確保を図る。

(4) 進路希望の実現

難関国公立大学等（東大、京大、阪大、神大、市大、医学部医学科）への進学者の増加を図る。

- ※ 現役の難関国公立大学進学者数を毎年増加させる。
- ※ 学校教育自己診断において、本校の進学指導に対する保護者の満足度をH26年度には80%以上を維持する。(H25年度 80.8%)
1、2年生の成績不振者には計画的な「成績不振者講習」を行い、学力の回復と意欲向上を図る一方、発展的専門的な学習「進学講習」を行い、学力を養成する。進路講演会、勉強合宿などを利用して卒業生チューターとの学習・進路相談を充実させ、生徒の進路意識の醸成を図る。
- ※ 卒業生チューターとの懇談を年間5回程度実施する。生徒自らが適切な進路選択ができるとともに、難関大学への志望力を高めるために進路指導体制の強化を促進する。
- ※ 進路ホームルームの充実と3年間を見通したプログラムのH26年度の完成に努める。

【3】 基本的な生活習慣の確立と自主自立・人権尊重の精神の涵養

(5) 生活習慣の確立と三丘スピリット育成

規範ある集団生活を確立し、遅刻指導の徹底と授業集中力を高める。

※ 1日1クラス当たりの遅刻人数を0.5人未満の維持をめざす。

部活動や学校行事を通じて「三丘スピリット」を育み、「集中と切替え」ができる生活態度を育てる。

各種の行事や部活動を通じて豊かな人間性とリーダーに必要な資質を養う。また顕著な成績をおさめた生徒は積極的に顕彰する。

※ 1、2年生の部活動加入率95%以上の維持をめざす。

悩みや不安を抱えた生徒に対応するため教育相談やカウンセリングの機能を高める。

(6) 人権尊重の教育推進

情報リテラシーの育成などの今日的課題をふまえて、リーダーにふさわしい豊かな人間性や資質を涵養するため、日常の教科教育のみならず、あらゆる場面で教職員が、人権教育に協力して取り組んでいく。

※ 毎年、学年ごとに1回以上の人権講演会を行い、人権意識を涵養する。

※ 学校教育自己診断（生徒）の「人権・環境・福祉などの今日的課題について学習する機会がある」に対する肯定的意見を60%以上をめざす。（H25年度46.8%）

そのため、人権教育推進委員会と学年、分掌が連携して、恒常的な情報交換を行う。

【4】 機動的な学校の運営体制の確立と教職員の資質向上

(7) 機動的な学校運営

機動的な学校運営のため、学校経営計画の学校の目標や取り組みを共有し、実行し、常に教職員が課題や改善点を意識し、次年度につなげる。

※ 教職員個々の評価・育成システムでは学校経営計画の項目に関連した目標を設定し、取り組む。また、年度末の自己評価で明らかになった課題や改善点は次年度の目標に反映させる。

※ 学校教育自己診断や学校運営に関する校長への提言シートを活用し、業務の見直しに不断の努力を行う。

I C Tが活用できる環境作りと機動的な情報伝達と共有を図り、全員がI C Tを使って業務の省力化を図る。

※ I C T統合及び校務処理システムの円滑な実施をめざす。

(8) 安全・安心で開かれた学校

安全で安心できる学校をつくるため緊急事態発生時の対応や教職員の研修など危機管理体制を確立する。

※ 各学期1回以上の研修を実施する。

生徒相談室の機能の充実を図るとともに、特に課題を抱えた生徒について、学年団での情報交換や連携指導を深める。

※ 各学期1回以上のケース会議の開催と、随時の学年団での情報交換会を開催する。

開かれた学校として、保護者や地域との連携を図るとともに、教育活動や学校運営についてW e bページを通じ公表していく。

※ W e bページは随時更新し、行事等は10日以内の情報提供をめざす。

※ 学校教育自己診断（保護者）の、「学校は、保護者から意見をきく機会を多く持っている」に対する否定的意見が10%以下をめざす。（H25年度 否定的意見21.1%）

そのため、保護者集会を各学年で実施し、内容を充実させる。

文化祭や登録文化財「三丘会館」、芸術祭、各種講演会などを広く府民に積極的に公開する。

※ 地域住民、府民など公開する行事を年間3日以上設定する。

(9) 教職員の資質向上

新着任教員対象にアンケートを行い、新しい職場への早期適応と研修の充実による教職員の資質向上を図る。

※ 各学期1回以上の研修を実施する。

授業力向上をめざし、校内研究授業を学期ごとに開催するとともに、教育産業等が主催する研修や他校の受講を支援する。

※ 教育産業や他校の研修に年間50人以上の参加を促進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年11月実施分]	学校協議会からの意見
<p>[I] 生徒・保護者アンケートの経年変化 昨年との生徒・保護者アンケートの結果はほとんど変動がない</p> <p>[II] 生徒・保護者アンケートで肯定的な意見が90%を超えるもの [生徒]①学校生活は楽しく入学して良かった。(92.4%) ①文化祭・体育祭や部活動等において生徒は自主的に活動している。(95.4%) [保護者]①お子様にとって学校生活は楽しく入学させてよかった(94.6%) ①文化祭・体育祭や部活動等において生徒の自主性が発揮されている。(95.9%) 両項目とも学校の指針として最も大切な事柄であり、この2項目の肯定意見が多いのは本校の学校運営が順調であることを示している。</p> <p>[IV] 授業に関するアンケート [生徒] ⑧大学受験に必要な科目にもっと重点を置いた授業をしてほしい。(76.0%) ⑨大学受験にあまりとらわれない学習活動にも力を入れてほしい。(50.3%) ⑦満足できる授業が多い。(73.4%) [保護者] ⑥大学受験に必要な科目にもっと重点を置いた授業をするべきだ。(51.4%) ⑦大学受験にあまりとらわれない学習活動にも力を入れてほしい。(44.6%) ⑧満足できる授業が多いと聞いている。(56.4%) となっており、生徒の方が大学受験に関して関心が高く、授業については生徒から保護者に伝わる値が17ポイントほどの開きがある。</p> <p>[教職員] ④興味関心を高め、学力向上につながる質の高い授業に努めている。(97.9%) ⑤生徒の実態を踏まえ、学習面・生活面とも工夫改善を行っている。(98.0%) となっており、この努力は徐々に生徒を通じ保護者にも伝わっていくと思われる。</p> <p>[V] 生徒・保護者・教職員で大きく違いの出た項目 [生徒]⑩人権・環境・福祉等の今日的課題について学習する機会がある。(39.8%) [保護者]⑨ ” (31.2%) [教職員]35 学校では人権講演会等、人権尊重の教育推進に努めている。(81.6%) である。生徒、保護者にとっては人権教育の高校での教育に関する時間や意識の割合が影響しているためこのような数値になっていると思われる。</p> <p>[VI] 経年変化の大きかった項目 学校運営の方式の変更により、教職員アンケートに大きな変化があった。</p> <p>[教育活動] ①教育計画の作成にあたって教職員で話し合う機会が多い。(64.2→34.7%) ②教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。</p>	<p>第1回（7月8日）</p> <p>○学校経営計画における「ICT活用」について 情報機器の利用について、分かりやすい授業に向けた活用だけでなく、自宅学習をせざるを得ないような活用や工夫も、あわせて考えて欲しい。</p> <p>○「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）再申請」について 三国丘高校の特色は何か、ということ十分に考えて再申請に向けて取り組んで欲しい。</p> <p>○昨年度進路結果について 第一志望に合格する実力を、教員生徒一体になってつけて欲しい。</p> <p>○その他 「これがあるから三国丘へ行きたい。」というような魅力をこれからも作って欲しい。 三国丘の自由さ、懐の深さ、いろいろな行事を自分たちの力で作り上げる、そういった三国丘の良さをもう一度再確認して欲しい。また、プロジェクト等を効果的に利用する方法をぜひ確立して欲しい。 情報リテラシーについて、SSHだけでなく、SGHにおいても情報モラルに関わる取り組みをして欲しい。教員だけでなく、生徒も電子黒板を活用できるようにして欲しい。</p> <p>第2回（11月10日）</p> <p>○学校経営計画における「学校行事など」について 全員参加の形式をとるか、有志参加の形式をとるか区別を明確にすべき。全員参加であれば、生徒全体の底上げが、有志参加であれば適性のある生徒の能力向上が目的となると思われる。イベントごとの目的を明確化し、事後にその評価を行い、当事者の満足度の調査を行うことが重要。</p> <p>○スーパーサイエンスハイスクール（SSH）再申請について 「SSH」概略図については、審査員が理解しやすく、説得力を持たせるため、「科学的探究能力の育成」欄の順序を、上から1年→2年→3年とする、各学年で課題研究において取り組む内容のつながり、発展が視覚的に明確になるようにするなどよりブラッシュアップを求める。</p> <p>○スーパーグローバルハイスクールの取組みについて スタートから半年、生徒にも自発的な姿勢が感じられ、順調なようであるが、希望したが選ばれなかった生徒も参加できるプログラムをもっと積極的に行うべき</p> <p>第3回（2月6日）</p> <p>○遅刻指導について 保護者へのフィードバックをして欲しい。学校と家庭と一緒に寄り添って指導していく方が良く、保護者と共に指導しないと遅刻はなくなる。</p>

府立三国丘高等学校

<p>(79.2→44.9%)</p> <p>③教育活動全般について生徒や保護者の願いによく応えている。(94.3→78.7%)</p> <p>⑧生徒の問題行動が起きた時、組織的に対応できる体制が整っている。(57.7→71.4%)</p> <p>[学校経営]</p> <p>⑮学校経営に、校長のリーダーシップが発揮されている。(81.1→58.3%)</p> <p>⑰学校経営に、教職員の意見が反映されている。(67.9→22.4%)</p> <p>⑳学校は、教職員が意欲的に取り組める環境にある。(64.2→32.7%)</p> <p>㉑各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。(64.2→46.9%)</p> <p>㉒職員会をはじめ各種会議が、情報交換と課題検討の場として有効に機能。(62.3→37.5)</p> <p>㉓管理職が教育活動に必要な情報を積極的に収集し、教職員への情報提供に努めていると思う。(79.2→49.0%)</p> <p>学校運営の在り方が変わったため、これらの変化は仕方ないが、㉓の結果にでている。教職員が意欲的に取り組める環境にあるという質問に対する回答が32.7%と半減したことの影響については、今後のアンケート結果をみて判断したい。</p>	<p>○学校教育自己診断における人権教育について 人権教育に対する生徒の評価と教員の評価の違いについて、生徒たちが教科の授業内などの学習では、人権教育と認識できていないだけではないか。表現の仕方に工夫をしたらどうか。</p> <p>○教科の授業について プロジェクタを使った授業などが浸透し、活用が進んで嬉しく感じる。公開授業でも保護者の評価も高い。教員の意欲的な取り組みのお陰で教育面でも良い結果が出ている。</p> <p>○SSHにおけるパフォーマンス評価について 評価される側も、評価される側も目標が分かりやすく、次の目標につながりやすい。フィードバックのやり方については、自分たちグループだけでなく、他のグループからも認めてもらうことで気づきがある。フィードバックの仕方については検討の余地がある。</p> <p>○学校教育自己診断について 教職員の努力により保護者・生徒とも学校教育に対する高い評価がみられる。教職員とも意欲的に取り組める、教職員一体となった学校改革を進めてほしい。</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 (1月29日)
<p>1 生徒の夢や志を育み、国際感覚を育成する取組みの推進</p>	<p>(1) 進学指導特色校にふさわしい「志学」や「キャリア教育」を推進 ア 進路意識の醸成を図る イ 高い志を育成する</p> <p>(2) 英語によるコミュニケーション能力の育成を図る ア グローバルリーダーの育成 イ 国際感覚の育成を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「三丘セミナー」「三丘カレッジ」等の充実を図る。 ・「SS探究・SS研究」「CS探究・CS研究」を充実させ、大学のオープンキャンパスなどを活用し、志の形成を図る。 ・科学の最前線にふれる機会を提供し、科学教育の充実を図り、理系進学者の増加を図るために、また高い進路意識を醸成するために「東京方面キャンパスツアー」を実施する。 ・本校にふさわしい3年間を見通した進路・キャリア教育のプログラムを完成させる。 ・リーダーとしての高い志を育成するために進路講演会・懇談会などの取組を充実させる。 ・京大・阪大・神大などの難関大学の研究室訪問や見学会を実施する。 ・医師・看護師などの医療系職場体験を実施し、医療系進学者の増加を図る。 ・文系の探究的学習「Creative Solutions I II III」・「CS探究」の充実を図る。「メリルハースト大学」の派遣教員の授業を学ぶことにより、生徒の学習意識を高め、グローバルリーダーとしての素養とリーダーシップを学ぶ。 ・英語教育の充実を図り、「海外進学講座」を充実させるとともに TOEFL ITP、TOEFL junior の受験者の増加をめざす。 ・オーストラリア・スタディーツアー、アメリカ・スタディーツアーを実施しグローバルリーダーとしての意識の向上を図る。 ・オーストラリアの友好校「カンタベリー・カレッジ」を始めとし、海外よりの短期留学生の受け入れを積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・20 講座以上提供する参加生徒の満足度 85%以上 ・課題研究選択生徒の満足度 85%以上 ・キャンパスツアー参加生徒の満足度 85%以上 ・3年計画の最終年にあたるプログラムの充実と完成 ・実施回数年 8 回以上 ・実施回数年 8 回以上 ・学校教育自己診断 (生徒)「適切な進路指導」肯定的評価 80%以上 (H25 年度 83.8%) ・参加生徒の満足度 85%以上 <ul style="list-style-type: none"> ・医療系進学者の 5%増加 ・満足度を 90%以上とする。 ・海外進学 1 名以上をめざす。 ・200 名以上を維持する (H25 204 名) ・学校教育自己診断「コミュニケーション英語を学ぶ機会」肯定的評価 65%以上を維持 (H25 年度 69.9%) ・参加生徒の満足度 90%を維持 ・海外よりの受け入れ 20 名以上をめざす ・学校教育自己診断 (生徒・保護者)「国際交流に関する取組みが充実している」の肯定的評価 80%を目指す。(H25 生徒 82.7% 保護者 81.1%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・三丘セミナー12回、東大訪問1回、京大訪問4回、阪大訪問3回、リーダーズセミナー1回、特別講義2回など計23回。同窓生などの熱い支援を受けて生徒の夢を育む重要な取組みでさらに充実してきた。(◎) 参加生徒の満足度 89% ・SSH・SGHとも大変充実した内容を実施。(◎) 課題研究選択生徒の満足度 97%。 ・「大阪府科学の甲子園」では4位(公立1位)に入賞。 ・「東京キャンパスツアー」実施(8月)卒業生の教授等の協力を得て質の高いツアーとなった。満足度 100% ・プログラム内容を毎年充実・改良している。 ・卒業生等による交流会(2年全員8月、3年全員4月・11月)、進路懇談会3回(希望者4月5月6月)、医学部進学希望生対象2回(4月8月10月)など9回実施。充実した内容で実施した。(○) ・東大(満足度100%)、京大(100%)、阪大医学部(100%)、SSH研究室訪問10回など14回訪問。(◎) ・今年度初めて1年全員京大見学会を実施(12月)(◎) ・学校教育自己診断(生徒)「適切な進路指導」87.2%(◎) ・地元総合病院での医療インターンシップ3回実施 ・67期生医療系進学希望 医・医19名 医・看13名、歯1名、薬14名 計47名 ・文系の探究的学習充実 SGHのプログラムとして、西本先生による授業を中心に大変充実した内容で実施。メリルハースト大学よりの派遣授業も順調に実施。「中間課題研究発表」(11月)、最終課題発表(2月)予定。京大キャンパスガイドでも成果を発表(12月)生徒の満足度100%(◎) ・海外大学進学希望 67期1名、69期1名 ・2年生文理学科155名、普通科2名がTOEFL ITPを受験(2月)。1年生希望者58名はTOEFL jrを受験予定。TOEFL チャレンジ42名受験、TOEFL 講座78名参加。TOEFL 東京合宿を12月実施(6名参加)など(◎) ・学校教育自己診断(生徒)「コミュニケーション英語を学ぶ機会」肯定的評価72.5%(◎) ・オーストラリア・スタディーツアー30名参加(8月) ・アメリカ・スタディーツアー26名(3月実施予定)、台湾スポーツ交流20名(3月実施予定) ・海外よりの短期交流受け入れ 韓国 慶山高校より25名訪問(7月)生徒交流 フィリピンよりの訪問団22名(10月)野球部交流 ホストリア メリーマウント高校22名(10月)6日滞在 ホームステイ他交流、アメリカ在任生徒1名交流 など多岐にわたる内容実施 (◎) ・倫理の授業中にベトナム、インドネシア、マレーシア サウジアラビアなどからの留学生による異文化交流を取り入れるなど、多様な場面でのコミュニケーション英語の実践の場を増やした。(◎) ・学校教育自己診断「国際交流に関する取組みが充実している」の肯定的評価 生徒 89.2% 保護者 84.2% (◎)

府立三国丘高等学校

<p>2</p> <p>確かな学力の向上と進路希望の実現</p>	<p>(3) 質の高い授業による確かな学力向上</p> <p>質の高い授業の提供</p> <p>イ 学力向上の取り組み</p> <p>(4) 進路希望の実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SGH関連科目、理数系スーパーサイエンス科目の充実や文理学科・普通科に適した教科・科目の教材開発、授業方法の研究を進める。 ・生徒の自学自習（家庭等での学習）時間を2時間以上確保させる。 ・授業アンケートや研究授業を活用して授業力向上を図る。 ・1年生及び2年生で勉強合宿を実施して、学力向上と学習意欲の向上を図る。 ・SSH 課題研究をイノベーション人材育成の観点から一層充実させ、その成果を、英語を交えて発表する。 ・平成 27 年度より導入する「SETを活用した英語コース」に向けて、本校生に適した教育課程を検討する。 ・基礎的、基本的な学力を高めるために読書量、読書時間の確保を図る。 ・難関国公立大学等（東大、京大、阪大、神大、市大、医学部医学科等）への合格者の増加を図る。 ・1、2年生の成績不振者には計画的な「成績不振者講習」を行い、学力の回復と意欲向上を図る一方、発展的専門的な学習「進学講習」を行い、学力を養成する。 ・三丘エクセレンスなどを利用して卒業生チューターとの学習・進路相談を充実させ、生徒の進路意識の醸成を図る。 ・生徒自らが適切な進路選択できるとともに、難関大学への志望力を高めるために進路指導体制の強化を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SGH、SSH校として、教員対象授業公開年4回以上、保護者への授業公開3回以上 ・1、2年生で1日2時間以上の自学自習する生徒の割合45%以上を維持（H25年度46%） ・生徒の授業満足度85%以上を維持（H25年度86%） ・勉強合宿の参加生徒の満足度85%以上を維持（H25年度100%） ・勉強合宿の生徒の参加数100名以上維持 ・SSH 課題研究の参加生徒の満足度85%以上維持（H25年度100%） ・教育課程の充実 ・冊子「月下氷人（推薦図書）」を活用するなどして、読書指導を充実 ・現役の国公立大学合格者数を毎年増加させる（H25年度167名） ・補充講習（放課後を利用して指名講習）の充実 ・三丘スタディハード（進学講習）の充実 ・卒業生チューター等との懇談・相談会の年間5回以上の実施を維持（H25 9回） ・「進路育成プログラム」の完成 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業は、他校の教員対象3回、保護者対象3回実施。他校教員対象では、授業後に研究協議も実施し意見交換し授業改善に有意義な機会となった。（○） ・課題研究の化学分野においてルーブリックを作成評価手法についての研究を行った（◎） ・家庭学習時間についてアンケート結果（第2回11月）は、（第1回7月）と比較して、2時間以上、1年は38%⇒35%、2年は39%⇒44% 1・2年平均39%⇒40% 2年は5%上昇したが1年は3%減。12年平均で昨年度より6%減。（△） ・授業アンケートを1回実施。それに伴い教職員も改善シートによる振り返りを全員実施。また、学年や教科でも分析。（○） 生徒の授業満足度87%（◎） ・勉強合宿は8月・9月に実施。1年48名、2年31名参加し、生徒の満足度は100%（○） ・SSH研修（5月）では、3年生が1、2年に向け、英語で課題研究成果を発表。（◎） ・「科学の甲子園 大阪大会」（10月）で府内4位を受賞。 ・SSH横浜生徒発表会にて3年3名英語で発表 ・京大GSC（グローバルイノベーション）に2年4名参加「サイエンスアゴラ生徒発表会（東京）」に内2名参加「近畿サイエンスデイ」に参加（3月）（◎） ・SSH 課題研究の参加生徒の満足度100%（◎） ・平成27年度入学生からの教育課程の改訂決定。また隔週土曜日授業も導入決定。理数教育の充実、SETによるTOEFL対応授業の導入を図る。（◎） ・「月下氷人」や「図書館だより」を活用し、国語科が特に1、2年生での読書記録を提出させて読書指導を行った結果、読書量増加傾向。読書指導は継続して重要課題である。（○） ・現在3年生の進路実現に向けて指導中。 ・「成績不振者講習」1、2年生において1・2学期でのべ81回実施した。授業で躓いていた生徒の指導にもっと力を入れたい。進学講習は三丘スタディハードとして計画的に実施。139講座開講。（◎） ・3年2回、1・2年各2回、医学部3回、SSH1回計10回実施し、生徒の進路意識の向上を図った。（○） ・バージョンアップをめざして毎年充実・改良を図っている。（△）
<p>3</p> <p>基本的な生活習慣の確立と自主自立・人権尊重の精神の涵養</p>	<p>(5) 生活習慣の確立と三丘スピリット育成</p> <p>(6) 人権尊重の教育推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・規範ある集団生活を確立し、遅刻指導の徹底と授業集中力を高める。 ・部活動や学校行事を通じて「三丘スピリット」を育み、「集中と切替え」ができる生活態度を育成する。 ・各種の行事や部活動を通じて豊かな人間性とリーダーに必要な資質を養う。 ・人間関係の構築などの今日的課題をふまえつつ、リーダーにふさわしい豊かな人間性や資質を涵養する。 ・人権教育推進委員会と学年や分掌が連携し、恒常的な情報交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1日1クラス当たりの遅刻人数0.5人未満（H25年度0.53人） ・1、2年生の部活動加入率95%以上を維持（H25年度95%） ・リーダー研修を年1回以上実施（H25年度2回実施） ・各学年、年1回以上の講演会実施 ・学校教育自己診断（生徒）「人権・環境・福祉に関して学ぶ機会」に関する否定的評価35%以下に（H25年度47%） 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻は3学期末で1日1クラスあたり0.50人と昨年（0.53）より若干減少した。2学期後半、3年生の遅刻回数は1.16→0.81に激減したが、1年生の遅刻回数が0.27→0.61と増加。特定の生徒による遅刻が多い。学習の基盤となる生活習慣改善に一層努めたい。（△） ・部活動加入率95%を維持。柔道部で全国大会、陸上部・なぎなた部・硬式テニスで近畿大会出場。男女バスケ部東京大会出場。文武両道の三丘スピリットの継承（○） ・リーダー研修を5月、12月の2回実施。今後も様々な場面で取り組んでいきたい。（○） ・3年は「進路選択のストレスについて」、2年は「犯罪被害者の遺族が語る命の大切さを考える」、1年は「ネット上のトラブル」をテーマに実施。（○） ・学校教育自己診断（生徒）「人権・環境・福祉に関して学ぶ機会」に関する否定的評価53%（△） ・来年度から男女混合名簿導入を決定したが、今後さらなる人権教育の充実が必要。

府立三国丘高等学校

<p style="text-align: center;">4 機動的な学校運営体制の確立と教職員の資質向上</p>	<p>(7) 機動的な学校運営</p> <p>(8) 安全・安心で開かれた学校</p> <p>(9) 教職員の資質向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・機動的な学校運営のため、学校経営計画の学校の目標や取り組みを共有し、実行し、常に教職員が課題や改善点を意識し、次年度につなげる。評価・育成システムとより一層関連を深める。 ・H26年度は校内イントラを一層積極的に活用し、情報の共有を進める。全員がICTを使って業務の省力化を図る。 ・安全で安心できる学校をつくるため緊急事態発生時の対応や教職員の研修など危機管理体制を確立する。 ・生徒相談室の機能の充実を図るとともに、特に問題を抱えた生徒について、学年団での情報交換や連携指導を図る。 ・開かれた学校として、保護者や地域との連携を図るとともに、教育活動や学校運営についてWebページを通じて公表していく。 ・文化祭や登録文化財「三丘会館」、芸術祭、各種講演会などを広く府民に積極的に公開する。 ・新着任教員が新しい職場に早期に適応できるように研修を実施し、教職員の資質向上を図る。 ・学力向上のため授業力向上をめざし、校内研究授業を開催するとともに教育産業等の授業研修受講を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断や提言シートなどを活用して、改善を図る ・利用についての研修を1回以上実施 ・各学期1回以上の研修を実施 ・「こころのアンケート」の継続実施 ・「支援カード」の円滑導入 ・随時、ケース会議を開催 ・随時、学年団での情報交換会を開催 ・各学年の保護者連絡会等を随時実施 ・Webページは随時更新し、行事等は10日以内の情報提供を行う ・地域住民、府民など公開する行事を年間3日以上設定する。 ・年間6回程度の研修を実施 ・校内研究授業 各学期1回実施 ・教育産業等の授業研修や他校の研修に年間50人以上を維持(H25年度82名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断アンケート(教職員)も実施。アンケートや提言をふまえて、来年度に向け改善を図る。(○) ・来年度に向け、分掌などの組織の見直しを検討し、分掌1つを統廃合した。(○) ・プロジェクタPTが中心となり、より効果的に授業で活用すべく研修を全・定合同で実施。(5月)(○) ・各クラブキャプテン対象に「救急救命研修」を実施。(7月)、また防災宿泊訓練を本校生徒、地域学童、教員等56名が参加して実施(10月)今年度は本校PTA2名も参加した。(◎) ・各学期1回ずつ実施(◎) ・問題を抱えた生徒に対しての情報を共有し、統一した指導を行うためにケース会議を開催。5回(◎) ・各学期・各学年成績会議及び情報交換会を担当、学年団などのレベルで随時実施。引き続き組織的対応を維持・強化していきたい。(○) ・1年3回、2年2回、3年は1回開催。視聴覚教室があふれるほどの参加があった。今後も保護者への情報提供の場として実施していきたい。(◎) ・行事ごとに速やかに情報提供した。SGHの英語版のWebページも作成し更新している。(◎) ・中学生・保護者対象の学校説明会を4回(昨年度2回)、塾対象説明会を今年初めて1回実施。(◎) ・文化祭2日、体育祭1日、芸術祭4日など7日実施。今後も機会をとらえて公開したい。(○) ・若手教員の勉強会「三究会」を立ち上げ、月1回ペースで校内勉強会や外部での研修(他校授業見学)2回を実施した。(◎) ・プロジェクタを活用した授業の校内研究授業期間を1学期に設定し実施。その他、相互授業見学が多く行われている(○) ・他校で実施される研究授業へ28名が参加。教育産業や他校等が実施する教科研修や入試問題研究研修等に53名が参加。(○) ・他府県の先進的取組校を訪問し、教科指導・進路指導を研修4名(広島学院、八王子東、筑波大付属駒場他)
---	---	---	--	--